

兩書の此等の記事は年代に於ても一致せるものなりとす、只舊唐書地理志安西大都護府の條下には「吐蕃急攻沙陀廻鶻部落、北庭安西無援、貞元三年竟陷吐蕃」と記し、新唐書地理志隴右道總記に吐蕃が「貞元三年陷安西北庭」と記し、同書安西大都護府の條下にも「貞元三年吐蕃攻沙陀廻紇、北西安庭無援、遂陷」と記し、本紀及び吐蕃傳と矛盾したる年月に配したれども、新唐書地理志の記事は、何等の考察を加ふる無くして舊書地理志を踏襲したるに過ぎず、然も舊書地理志の此の記事は誤謬に過ぎざること疑無し、何となれば、貞元六年忠貞可汗が殺され、奉誠可汗の立ちたる時、頡于迦斯は恰も吐蕃と北庭に戦ひて國に在らず、此の戦敗れて北庭は吐蕃に陥り、頡于迦斯は國に還りて初めて奉誠可汗阿撥の位を認むるに至りしこと、兩唐書回鶻傳の明記する所なれば、貞元三年に既に北庭が吐蕃に陥れられしものとは認む可らざればなり。

此の如く北庭の陷没は貞元六年なること疑無ければ、舊唐書廻紇傳に去冬寇北庭と曰へるは貞元五年の冬を指せるものにして、其の吐蕃傳に記する所亦同じ、次に舊唐書廻紇傳は十年秋頡于迦斯が其の國の壯丁を悉して之が回復を計りたりと記せども、然も此の一節に續きて直に「貞元七年五月」と書き起せる記事あるより考ふれば、其の十年と曰ふものは六年の誤なるべく、實に同書本紀には楊襲古を殺したること及び浮圖川を失ひたることを以て、すべて六年の條に收めたり、然も亦同書吐蕃傳には「七年秋又悉其丁壯五六萬人、將復北庭、仍召襲古偕行、俄爲吐蕃・葛祿等所擊大敗、死者大半、頡干(于)迦斯給之曰、且與我同至牙帳……竟殺之」と記し、新唐書本紀にも頡于迦斯が楊襲古を給き殺したるを貞元七年のこととせり、されば回鶻が貞元六年に吐蕃に陥れたる北庭を回復せんとし、重ねて敗北を見るに至りたるは同年秋の事なりしか、或は其の翌七年秋のことなりしかは俄に定め難き